

6/19 朝日

# 円安 134円台に 2週間で7円下落

8日の大蔵省市場で円相場が一時、1ドル=134円台に下落し、2002年2月以来約20年4カ月ぶりの円安水準となりた。5月下旬から約2週間で7円ほどの円安が進んだ。米国の長期金利が上昇し、日本

円を売って金利の高さで円を賣ら動きが広がった。

円相場は4月下旬に一時1ドル=133.1円台まで円安が進んだ。その後、米国の景気減速を防ぐために米連邦準備制度理事会(FRB)が進んだ。その後、米国の改善するなど、米経済が想定より堅調でFEDが金融引き締めを急ぐとの見方が再び強まつた。一方、日本

円には一時1ドル=122.6円台まで円高に戻した。

しかし、今月初めに公表された米国の雇用統計が

米の金利差は広がつてい  
る。

ニッセイ基礎研究所の上  
野禰志氏は「日銀が粘り強く金融緩和を続ける姿勢を

変えないことが、投機筋によつて円高の口実とされてしまう。(範囲)」  
あるわざではないので、さらによつて円高の抵抗力があるわざではないので、さらによつて円高の可能性もある」と述べた。

(細見る)

銀行は金融緩和を続け、日